

《 徳 島 県 》

第 50 回中国・四国音楽教育研究大会 徳島大会

第 35 回徳島県小学校音楽教育研究大会

大会主題 「つなげよう 深めよう 音楽のよろこび」

小学校部会研究主題 「伝え合おう 音と心のハーモニー」

1 大会主題について

少子高齢化や情報化が進み、児童を取り巻く環境は大きく変化している。また、地方創生、グローバル社会の実現など、早急に取り組むべき課題が山積している。このような中、他者を思いやり他者と協働する心、美しいものに感動する心、明るく前向きに生きようとする心など、豊かな心を培う音楽の担う役割もこれまで以上に重要視されている。

前回の大会においては、音楽を「表し」、「分かち合い」、「伝承する」ことにより、音楽のよさや美しさを感じたり表現活動を楽しんだりすることができた。本大会では、これまで積み上げてきた実践をさらに発展させ、大会主題を「つなげよう 深めよう 音楽のよろこび」とした。この主題のもと、たくさんの「ひと」、いろいろな「もの」と音楽をつなげ、音楽のよさを一人一人がより深めることによって、心豊かな生活を営むことができる児童が育つことを願ってやまない。

「音楽のよろこび」とは、音楽のよさを一人一人が体感することで、明るく楽しい気分になったり、生きる勇気やよろこび・元気が湧いたりする。また、他者と共有することで、お互いに心が通い合ったり、力を合わせたりすることになる。これらの「音楽のよろこび」を得ることで、生活を明るく豊かにしていくことのできる児童を育てていきたい。

音楽活動を通して、音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図りながら、一つの音楽をつくっていったり、聴いたり、交流したりすることで「ひと」とつながる。また、音楽活動を通して、それぞれの地域のよさを再発見し、地域を愛し、誇りをもつことで「地域」とつながる。そして、幼稚園・小学

校・中学校・高等学校の音楽科教育を系統的につなげることによって、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成することになると考える。

小学校部会の研究主題「伝え合おう 音と心のハーモニー」では、音楽学習を通じて感じ取った思いを仲間とともに共有し合うことで、自分と音楽と仲間のつながりをより深いものにするを想起している。

2 研究の視点

(1) めざす児童像

<低学年>

仲間と一緒に楽しく音楽に関わり、体全体で生き生きと表現したり音楽を聴いたりすることにより、生活の中で音楽に親しむ児童

<中学年>

自ら進んで音楽に関わり、仲間と協力して思いや意図をもって表現したり、様々な音楽を聴いて感じたことを伝え合ったりすることにより、生活の中で音楽経験を生かそうとする児童

<高学年>

主体的・創造的に音楽に関わり、仲間と協力し、思いや意図をもって表現したり、様々な音楽を味わって聴いたりすることにより、生活の中で音楽経験を生かそうとする児童

(2) 研究の内容と方法

①児童の発達段階に応じた適切な指導計画を作成する

それぞれの学年で、指導する内容の系統性を考慮した上で工夫する。

表現及び鑑賞の領域のバランスを配慮する。

- ②主体的・対話的で深い学びが実現するような授業展開を工夫する
- 学習活動の中で、感受したことを互いに話し合い、よりよい表現へとつなげるための工夫をする。
- ③新しい観点に基づいた評価の工夫をする
- 「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」を踏まえて評価の在り方を研究する。
- ④我が国や郷土の音楽の指導方法を工夫する
- 児童の実態を十分に考慮し、日本の音楽の魅力を感じることができるよう工夫をする。
- ⑤全ての児童が生き生きと活動できるよう支援する
- どの児童も意欲的に学習活動に取り組むための学習の場や個別支援を研究し、ユニバーサルデザインの授業づくりにも取り組んでいく。
- ⑥指導の補助としてのICT等の活用を図る
- 音楽学習に資する様々な機器や学習ソフトを効果的に用いることで、学習の効率化や多様な取組を進めていく。

3 研究の取組

<第1学年 歌唱>

題材「ようすを おもいうかべて」

教材 はる なつ あき ふゆ

おどる こねこ

目標 イメージや情景を膨らませ、想像豊かに思いをもって歌う。

- 歌詞の内容から、季節の様子や気持ちを思いを膨ませて演奏していた。
- 自分たちがイメージしたものを言葉や文字・絵にも表し、表現の工夫の手がかりにしていた。
- どのように歌いたいのか自分の思いを発表し合いながら歌うことで、活動後の振り返りが確かなものになっていた。
- 互いの歌を聴き合うことで、イメージに合

った歌い方の工夫に気付き、表現に生かすことができた。

<第2学年 鑑賞>

題材「汽車に のって 音の せかいを たびしよう」

教材 汽車は 走る

しゅっぱつ

目標 リズムに反復や楽器の音色、速度の変化が汽車の様子を想像する手掛かりになっていることに気付き、情景を想像しながら楽しく聴く。

- 音楽の要素である音色や速度などに注目して楽曲を聴くことができていた。
- 曲の中間部を聴き、汽車が走る様子を感じ取っていた。
- 速度の変化が何を表しているのか考えながら聴く様子が伺えた。
- 心に残った汽車の様子やその理由をグループで伝え合うことから、音楽の要素の工夫に気付くことができていた。

<第3学年 音楽づくり>

題材「よびかけっこで森の音楽をつくろう」

教材 森の子守歌

森の音楽

目標 強弱や速度などを工夫しながら、思いや意図をもって表現する。

- イメージに合った音楽になるための話し合い活動を、何度もくり返し行っていた。
 - 強弱や速度などの工夫をしながら、イメージに合った音楽になるよう話し合いを行っていた。
 - 友だちの表現のよさに気付き、自分の表現に生かそうとする意欲が感じられた。
 - グループの工夫を聴き合うことで、自分の思いや意図を膨らませることができた。
- #### <第4学年 音楽づくり>
- 題材「かけ合いや重なりのおもしろさを楽しもう」
- 教材 もみじ
- 音階から音楽をつくろう

目標 即興的に表現した旋律をつなげたり重ねたりして、まとまりのある音楽をつくる。

- 演奏の順番を決め、互いの音を聴き合いながら旋律をつくっていた。
- 友だちの演奏を聴く際には、ポイントを決めて、工夫やよさを認める発表ができていた。
- 音やフレーズのつなげ方を工夫したり、終わりの音を意識したりしている様子が見られた。
- 互いの演奏を聴き合うことを通して、まとまりのある音楽のよさを感じていた。

<第5学年 歌唱>

題材 「ハーモニーを味わいながら表現しよう」

教材 星笛

夢の世界を

目標 歌詞や曲想から感じたイメージを生かして、ハーモニーを味わいながら思いや意図をもって二部合唱をする。

- 友だちのよいところを見つけて、自分の表現に生かそうとしていた。
- 録音した合唱を聴き、歌声の変化を感じ取ろうとする様子が見られた。
- 声の重なりや響きを感じ取りながら、歌うことができるように取り組んでいた。
- 本時と前時の歌声を聴き比べることで、曲想に合った歌い方の工夫のよさが分かり、さらに響き合う二部合唱をしようとする意欲が感じられた。

<第6学年 器楽>

題材 「豊かな表現を求めよう」

教材 明日を信じて

風に向かい光に向かい

交響曲第5番「運命」第1楽章から

目標 グループのイメージに合う表現を工夫し、気持ちを込めて演奏する。

- ヒントを手掛かりにしながら、イメージに近づく工夫をした。

○自分のイメージした表現につながらない時は、自分たちが工夫したポイントを振り返って見直しを行っていた。

○友だちの演奏を聴いて、グループのイメージに近づいているかなど、友だちの表現のよさと改善点に気を付けて聴いていた。

○前時の演奏や友だちの演奏の工夫を聴き合うことにより、さらにイメージに合う演奏に取り組んでいた。

4 成果と課題

本大会では、会場校の子供たちの生き生きと音楽活動に取り組む姿が見られた。音楽集会では、学年の発達段階に応じた表現の工夫が見られたり、柔らかな歌声が体育館いっばいに広がったりしていた。また、活動中の子供たちの楽しそうな表情がとても印象的でした。公開授業においては、歌詞の内容を思い浮かべて表情豊かに歌っている姿、互いの演奏を聴き合いイメージに合う表現を工夫している姿などが見られた。さらに、どの学年も話し合い活動を重視し、楽曲に対する思いや表現の工夫を共有し、自分の演奏表現をよりよいものにすることができていた。

このように多くの成果もみられたが、次のようないくつかの課題も残った。

- ・児童の表現活動を豊かに導くための効果的な学習評価
- ・話し合い活動を活性化させるための手だて
- ・子供の実態に応じた教材選択や指導計画の在り方

これらの課題については、引き続き研究を進め、小学校における音楽科教育の充実・発展に向けて取り組んでいきたい。